

令和8年度第2回 印西市国際化推進懇談会 会議録

日時	令和8年8月27日（木）午後2時00分から3時20分
場所	印西市役所 204会議室
出席者	宍戸 真 会長（議長） 川喜田英博委員、治田三夏男委員、髭野芳英委員、田所美香委員、 日高理映子委員、張 京玲委員、ラビンドラ デイ委員、 齋藤 マリア ジェシカ委員、チュティ ロアン オアイン委員
欠席者	マクドエル デービット ジョン委員、渡辺 エレーナ委員、 富田多美子委員、高橋 圭 委員（計4名）
事務局	企画政策課 海老原、竹下、山崎、齋藤
傍聴者	0名

内容

- (1) 印西市国際化推進方針について
 - 多文化共生を進める上での地域と外国人市民のつながりについて -

議事録（要点筆記）

- (1) 印西市国際化推進方針について
 - 多文化共生を進める上での地域と外国人市民のつながりについて -

事務局 【資料1に基づき、説明】

以下、テーマについて意見交換

ア 地域活動の「入口」をどうつくるか

イ「イベント」ではなく「相談」にどう応えるか

委員A 日本人の視点での調査は行っていないのか。
 外国人市民のごみ出しの問題などがあるが、外国人市民に対して日本人市民がどのように感じているのかの調査はないのか。

事務局 日本人市民に対して外国人市民をどう思っているのかといった直接的な調査はおこなっていない。市民満足度調査において国際交流に関する質問項目はある。

委員B 多言語でコミュニケーションをとり、外国人市民と日本人市民をつなげるハブとなるスタッフ（職員）をおいてはどうか。

文化、言葉の違いで壁ができ、お互いに受け入れづらくなっているその間にスタッフがいれば、受け入れられる環境や、信頼できるコミュニティの形成の手助けになると考えられる。コミュニティがあることで外国人市民も安心して相談できるようになると思う。

外国人市民が多く利用する SNS など、情報の取り入れ方を近くのスタッフが把握することで、情報をより届けやすくなるのではないだろうか。

また外国人市民もコミュニティを通して地域への適応が進めば、「支えられる人」から「地域を担う人」になれるだろう。例えとしてイベントであれば、外国人による出店やパフォーマーとしての参加など方法はあると思う。

適切な報酬があれば、能力とやる気を持った人が日本人と外国人をつなぐスタッフを担ってくれるはずだ。

議長 日本人と外国人の交流を支える役割についての意見であったが、印西市国際交流協会がその役割を担っているのではないのか。

委員C イベントや日本語教室を通して外国人と日本人が交流する機会をつくっている。

委員A 日本語教室を知ったきっかけとして市のホームページや市からの紹介が増えてきている。最も多いのは友人からの紹介も増えてきている。外国人同士のつながりができているのではないだろうか。外国人市民が何に困っているのか、何を知りたいのか、何をしたいのかをおさえておくべきだ。
最近、日本語を話す聞くことはできるが、読み書きができない外国人が増えてきている。印西市で住み続けるために日本語の読み書きを習う人と日本人との交流を求める外国人が増えてきていると考えられる。

委員D 外国人には日本人と交流を持つ機会やチャンスはある。
自分から動く必要はあるが、友人や知り合いはできる。

委員E 外国人は相談したいことはあるが、友達になりたいわけではないのでは。
分からないことに対してそれを聞くためのコミュニティを求めているのではないのか。

議長 特定の困りごとを解決するためだけの日本人とのつながりではなく、地域の中で様々な国籍の人が交流できるようにするための議論ということではよろしいか。

委員C 困りごとを相談できる場の提供として、外国にルーツを持つこどもの保護者との懇談会「グリーンカフェ」を月に一度行っている。

町内会では外国人の住民のごみ捨てマナーの問題などに対するクレームが増えており、町内会の退会や入らない人も増えてきている。

議長 町内会の話題がありましたが、回覧板が無くなりつつありますが、それに代わるような情報の入手手段はどのようなものがあるのか。

委員F 入っている町内会ではデジタル回覧板が4、5年前から利用されている。

デジタル回覧板は町内会の会員から概ね好評であった。

通常回覧板は独居の高齢の方の生存確認としても有効だった。

議長 市役所はホームページのみではなく、SNSを活用した情報発信はおこなっているのか。

事務局 XやLINEを活用した情報を発信している。

しかしほとんどの情報が日本語のみであり、これをどのように解決するのが課題となっている。

議長 SNSでの情報発信時の多言語対応など考えているのか。

事務局 ホームページは多言語に対応している。重要な防災関係の情報は別にポータルサイトがあり多言語に対応している。

SNSは情報が届くまでとても速いが、多言語化が、今後の課題になる。

議長 先日の豪雨の際もホームページよりも速くXで情報発信がされていた。

委員G 「地域活動の入口」として、転入時に多言語の資料の配布はどうか。加えて、転入者の母国語が話せる職員がオリエンテーションなど行えば、安心感を与えられるのではないかと。

調査結果にある「仕事の関係で印西に住んでいる外国人」の中で、数年後に帰国される方へ相手をする必要はないのでは。

また「ずっと住み続けたい」が50%もあって驚いた。さらになじみたい、ずっといたいと思わせられるような、「入口」での対応が重要だ。

議長 転入時の資料についてありましたが、現在市で配布しているものはあるのか。

事務局 現在多言語で配布しているものはごみの出し方ルールに関するもののみ。

先日の視察で成田市、富里市では多言語かつ簡潔にまとめたものを転入時に配布していた。同じように転入時に配布できるものを用意できるようにしていきたい。

委員A 委員Gに賛成。こちらから一方的に情報を出すだけではなく、それを理解してもらおう努力も必要では。オリエンテーションのような形でなくても情報を出すだけではなく理解してもらえるような場を設けるべきだ。

前は配偶者が日本人の場合が多く、日本語で情報も伝わっていたが、今は夫婦ともに日本語が分からない家族滞在の外国人が増加している。そういった方々が孤立しないために「入口」づくりが重要になると考えられる。

委員F 夏休みの小学校に日本人と外国人の子ども達を集めてサマーキャンプを行っている。自然な形で国際交流ができれば、お互いに理解が深められるのではないだろうか。学校でも外国人の間には壁ができてしまっている。より自然な形で国際交流が生まれるようなイベントがあるとよいのでは。

議長 そういった試みはあるのか。

事務局 通常のイベントは多く行っているなかで日本人も外国人も参加することはあると思うが、日本人と外国人の交流を目的として行ったものはない。子どもたちは国籍関係なくすぐ仲良くなり、それをきっかけに親同士も仲良くなるイメージがあったが、実際は子ども達の間にも壁はあることに気づきがあった。

委員F 小学校で週に二日、日本語指導員として勤務している。子どもでも明白に嫌がることや仲間はずれはしないが、外国人の子どもが孤立してしまっている様子がよく見られる。日本人の子どもたちは印西市に住む中で、多民族、外国人と学校関係なく接することがないのが原因だと考えられる。この会議に出るたびに外国人に向けたメリットのあるものを考えるだけではなく、印西市に住む子ども達が印西市に住みながら広い視野を持てるようなことを考える会議になってほしい。

委員A 日本人への情報提供において広報など媒体は様々あるが、外国人にはどのような形で情報を発信するのかが問題である。やさしい日本語で書いたとしても見てもらえていないなど、どのようにすればいいのかわからない。また日本人の子ども達への英語教育はとてもいいが、外国人との交流にはどれほどお金をかけてもらえるのか、情報発信はどう行うのかと疑問が生まれる。

委員H 情報の「入口」に関して、アルバイト先にも外国人が多く働いており、イベントの情報を共有している。また印西市国際交流協会に入っているのも情報を得られているが、ほとんどの外国人はホームページではなく SNS から情報を得ている。やさしい日本語で書かれている資料が市役所にあると伝えてもいかないう人も多い。情報入手する SNS として Instagram や Facebook が多い。

議長 市では Instagram やサイトで多言語での発信を行っていく予定なのか。

事務局 広報に関しては外国人に有益であると思われる情報を抜粋し、やさしい日本語、英語、中国語に翻訳し配布を行っている。しかし情報の入手先として SNS が多いとの話しもあったので、そこでの多言語化も課題と考える。広報全般については「マチイロ」アプリを用いて多言語化ができています。しかし広報の中から自分に有益な情報を探し出して読む人は日本人でも多くはない。しかし SNS で出す情報は緊急性のある情報が多く、そちらについては今後対応を考えていく。

以下、次のテーマについて意見交換

ウ「支えられる人」から「一緒に地域を担う人」へ

議長 日本人に助けてもらうというよりは、外国人の方にも地域のイベントやお祭りに参加していただきたいという趣旨でよろしいか。

事務局 その通りである。

委員I そのような場合は知らない。

議長 委員D はそういった活動は多くされているのでは

委員D 自分から探してよく参加している。そういった場で声をかけて知り合いを増やしている。もちろん全員とできるわけではないが、積極的にすぐに関わり行動を起こして知り合いを増やしている。

委員H そのようなイベントのスケジュールが分かれば参加したいと思う。

議長 印西市国際交流協会のイベントも、出会いの機会となるだろうか。

委員C 機会になると思う。

委員 A 委員 B の話^{はなし}で出てきた、多言語^{たげんご}を使い、外国人^{がいこくじん}と日本人^{にほんじん}をつなげる活動^{かつどう}をしたい方がいるのはとても心強い^{こころづよ}なと思った。そういった人^{ひと}たちをどのように組織^{そしき}し、育てていくか課題^{かだい}となっていく。クレアでは防災時^{ぼうさいじ}の外国人^{がいこくじん}リーダーの育成^{いくせい}のための研修会^{けんしゅうかい}を行っている。外国人^{がいこくじん}に防災^{ぼうさい}についての説明会^{せつめいかい}のみで終わっていたが、外国人^{がいこくじん}の中^{なか}からもリーダーを育てる流れ^ながきている。防災^{ぼうさい}に限らず、行政^{ぎょうせい}の支援^{しえん}のもと外国人^{がいこくじん}リーダーを立てることが有効^{ゆうこう}ではないだろうか。

委員 B 木^きで例え^{たと}えるとスタッフは幹^{みき}でボランティアが枝^{えだ}となる。ボランティアはありがたいが、時間^{じかん}などの制限^{せいげん}でいない場合^{ばあい}もあるので、スタッフは幹^{みき}としてしっかりと根^ねを張^はっていればどのような活動^{かつどう}でも成長^{せいちょう}できると信じている。交流^{こうりゅう}できる人^{ひと}、自ら動^{みづか}ける人^{ひと}には必要^{ひつよう}ないかもしれないが、交流^{こうりゅう}が不得意^{ふとくい}な外国人^{がいこくじん}に向けて軸^{じく}が必要^{ひつよう}だと考^{かんが}える。適正^{てきせい}な給与^{きゅうよ}があれば全^{ぜん}力^{りき}かつ時間^{じかん}をかけてスタッフは働^{はたら}くようになると思^{おも}う。

議長^{ぎちやう} 国際交^{こくさいこうりゅう}流^{りゅう}をリードするような方^{かた}の育成^{いくせい}が求められるということであった。

委員 G 先日^{せんじつ}の印西市^{いんざいし}市長^{しやう}の Instagram で伝統芸^{でんとうげい}能^{のう}について、転入^{てんにゅう}してきた人^{ひと}に呼び掛^よけて、その文化^{ぶんか}と触^ふれる機^き会^{かい}を設^もけている記事^{きじ}を見^みかけた。それは日本^{にほん}人^{じん}に向^むけたものであったが、永住^{えいじゅう}したい外国人^{がいこくじん}が 50% もいるのだからその人達^{ひとたち}に向^むけて、同^{おな}じようなやり方^{でんとうげい}で伝統芸^{でんとうげい}能^{のう}に触^ふれる機^き会^{かい}を設^もければ、興味^{きょうみ}を持ち、伝統芸^{でんとうげい}能^{のう}を継^つぐ外国人^{がいこくじん}も生まれるかもしれない。

事務局^{じむきょく} (外国人^{がいこくじん}委員^{いいん}に向^むけて) 皆^{みな}さんは防災訓^{ぼうさいくんれん}練^{れん}に参^{さん}加^かしたことはあるか。

(数^{すう}名^{めい}、「参^{さん}加^かしたことがある」と声^{こゑ}が上^あがった)

事務局^{じむきょく} まわりの方^{かた}には防災^{ぼうさい}の意^い識^{しき}はあるのか。

委員 H 日本^{にほん}語^ごを勉^{べん}強^{きやう}している人^{ひと}は知^しっているが、そうではない人^{ひと}は知^しらないしわからな
いと思^{おも}う。

事務局^{じむきょく} 防災意^{ぼうさいい}識^{しき}がないというよりも、そういった情^{じょう}報^{ほう}が届^{とど}いていないことがわかった。

委員 D もともと防災意^{ぼうさいい}識^{しき}を持^もっていないことがほとんど。
ゴミの分^{ぶん}別^{べつ}に関^{かん}しても、外国人^{がいこくじん}は分^{ぶん}別^{べつ}する考^{かんが}えを持^もっていないため、問^{もん}題^{だい}がおき
る。心^{こころ}からそういったル^いール^{しき}や意^い識^{しき}を持^もっていないから行政^{ぎょうせい}から外国人^{がいこくじん}の意^い識^{しき}
を変^かえようとするのは無^む駄^だだと思^{おも}う。

議長 来週9月1日は防災の日であるが、防災の情報が十分に届いていないということか。

事務局 先日の豪雨で、外国人の防災訓練の参加や防災情報がどこまで届いているのかというのがあったため、関連して聞いてみたが、話にもあった通り意識が無いのであれば、より情報を伝えることが重要だとわかった。

委員 F 防災に関して、外国人は備蓄の考えもないと思う。スーパーはいつでも空いているので大丈夫だろうと思っているのかもしれない。転入時に日本は地震が多いことを伝え、備えておくといったものを文字だけではなく写真で示すことで、より伝わりやすくなると思う。

議長 防災マップも日本語のみののか。

事務局 総合防災ガイドがありオンライン上であれば多言語に対応している。

議長 紙のものはないのか。

事務局 ガイドの中にマップがあったはずだが、多言語に対応していたかはわからない。

議長 備蓄や防災マップなどの情報が伝わるように変化していくことが望まれる。

議事については以上。

令和8年8月27日に行われた印西市国際化推進懇談会の会議録は、事実と相違ないので、これを承認する。

令和8年9月16日

会議録署名委員 日高 理映子
